

全国障害者在宅生活支援事業者連絡会 名古屋支部
第六回土屋訪問介護事業所連続学習会

知的障害者の“本気”の脱施設化を考える
～知的障害者の脱施設化における重度訪問介護について～

「重度訪問介護による自立生活の可能性」

社会福祉法人 聖母の家

相談支援事業所 陽だまり

社会福祉士、精神保健福祉士 池田博実

Tさんの今までの人生①

- 平成6年 誕生 通常分娩
- 平成12年 就学前検診でやや知的発達に遅れがあることの指摘を受ける。
- 平成13年 公立小学校入学 通常学級にて指導を受ける。
- 平成17年 授業中に教室からの飛び出し校外へ飛び出し、トイレでの閉じこもりといった不適応な様子が見られるようになる。母親の登下校付き添いが始まる。
- 平成19年 公立中学校入学 この頃より特別支援学級への通級の検討が始まる。
- 精神科の初診を受け療育手帳の取得を目指す。以降、現在まで診察は継続している。
- 平成20年 中学2年進級に合わせて療育手帳を取得、特別支援学級での指導が始まる。
- 平成21年 母親が脳梗塞のため入院する。祖母の世話を受けるが、登校拒否や拒食症状が発生する。
- 平成22年 特別支援学校高等部入学 入学して半年程で、登校拒否を起こす。担任から、教育支援が受けられにくいのではという事から児相を通じて入所を勧められる。また、てんかん発作や不規則な無断外出が頻発し、精神科へ入退院を繰り返すようになる。

Tさんの今までの人生②

- 平成24年 特別支援学校高等部を中退し、日中は生活介護、夜間はグループホームで過ごすことになる。しかし、利用開始時から、他害や物損、無断外出などの問題行動が不定期に発生し、無断外出を狙った逃げ出しが多い傾向にあった。
- 生活が始まるとすぐに、周囲へのアピール行動として物を投げる、壊すといった行動が発生するようになる。
- さらに、物損の延長から他利用者や支援者を殴る、蹴るなどの他害が発生するようになる。
- 問題行動の発生理由としては、本人の要望が通らない場合、他利用者とのトラブルが大半を占めている。
- 昨年12月、グループホーム内で他害が発生し、支援者が警察へ通報し保護される。
- そのまま、精神科病院へ入院となる。グループホームとの契約は解除となる。

本人の思い

- GHには戻りたくない。怒られるのが嫌だ。
- 入院生活は飽きた。こんなところ早く出たい。
- お兄さんに会いたい。
- 何を聴いても「嫌だ、嫌だ、もう出たい」を繰り返す。

家族の意向、思い

- 父は仕事があり、Aさんとの関わりは薄く、支援を求められない。
- 母は身体的な障害もありAさんの突発的な行動に対応できない。そのため、Aさんとの生活に不安を感じている。
- 兄は独立して深く関わりは求められない。
- 自宅へ帰って家族と生活するのは難しい。
- 両親は入所を希望されているが、システム上、すぐに入居は難しい。兄は入所を反対。
- 兄の思いとして、Aさんには福祉サービスの利用で充実した生活を送ってほしいと思っている。しかし、福祉に関して不信感を抱いている。

以上の経歴を持った方の退院調整の依頼がきました。

あなたなら退院に向けてどう進めていく？

療育手帳A2、 障害支援区分6（行動スコア12点で強度行動障害）

入院継続（長期入院）？、施設入所？、グループホーム？

シェアハウス？、一人暮らし？

- ・ 消去法で考えない。本人にとって最適な暮らしを考える。

入所施設支援員としての経験

○利用者の様子

- 一般社会とは違う異空間。
- 感情がストレート
- 非言語コミュニケーション。

○学んだこと

- どんな行動や表現に意味はあり、日常生活の中で関わりに意味を待たせる。
- 直接支援の経験が、地域の各事業所での支援や対応についての対応助言ができるようになった。

退院調整カンファレンスで！

- ・「こんな人が地域生活できるわけがない！」
- ・「知的障害の方で社会性に問題があると地域に戻れないのでは？」

行政との複数回の面談

- ・「今まで例がない。」
- ・「緊急時やもし何かあったらどうするのか？」

